

[成果情報名]ビワたてぼや病(ビワサビダニ)防除効果を向上させる展着剤とその使用濃度

[要約]サンマイルト水和剤に湿展性展着剤を加用するとビワたてぼや病の被害果が少なくなり、展着剤の濃度を高くするとさらに防除効果が高まる傾向にある。

[キーワード]ビワ、たてぼや病、ビワサビダニ、展着剤

[担当]農林技術開発センター・果樹研究部門・カンキツ研究室

[連絡先] (代表) 0957-55-8740

[区分]果樹

[分類]指導

[背景・ねらい]

ビワたてぼや病は、ビワサビダニが食害した果面に灰色かび病菌が寄生することによって発現するとされている(森田 1997)。本病は特に施設栽培で発生が多く、商品化率低下の一因となっている。ビワたてぼや病の効率的な防除方法として、サンマイルト水和剤に湿展性展着剤(マイリノー10,000倍)を加用することで防除効果を高めることを明らかにしている(ながさき普及技術情報第30号)。

現地からの要望で、他の湿展性展着剤の加用効果および有効な使用濃度の解明が求められている。そこで、4種の湿展性展着剤について使用濃度の違いによる防除効果を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. いずれの湿展性展着剤(マイリノー、クミテン、ネオエステリン、まくぴか)を加用してもサンマイルト水和剤単用よりビワたてぼや病の発生が少なくなる(図1)。
2. マイリノーとネオエステリンでは使用濃度の濃い方が、防除効果が高まる(図1)。
3. クミテンとまくぴかでは使用濃度での差は認められない(図1)。

[成果の活用面・留意点]

1. ハウス栽培条件下の1回散布の試験である。
2. ビワサビダニはビワの開花前と開花期の体系防除で防除効果が高まる(ながさき普及技術情報第20号)。

[具体的データ]

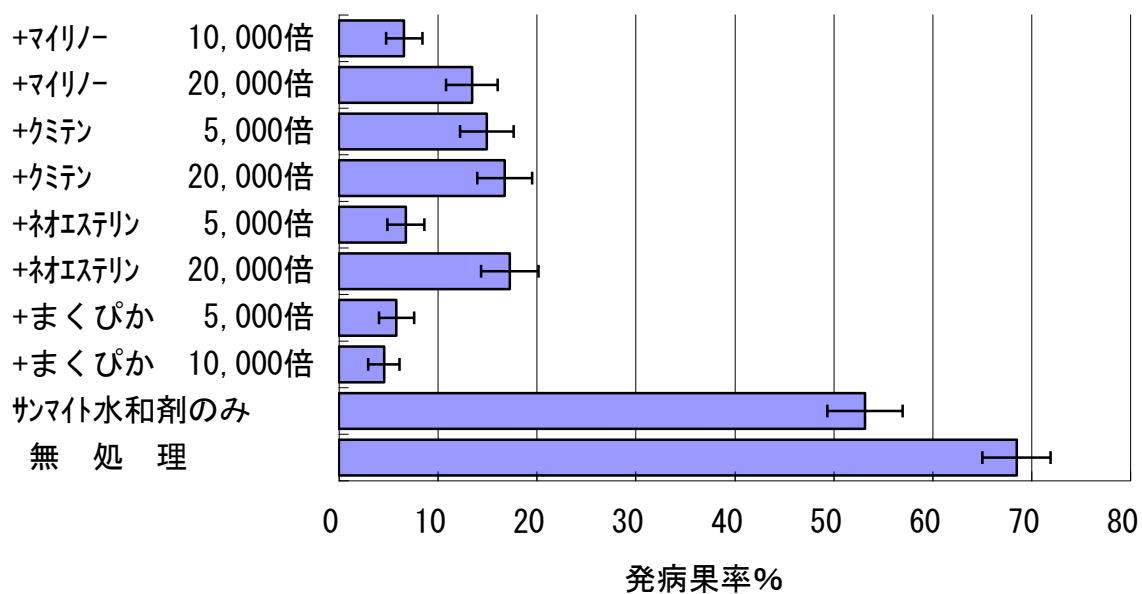


図1 ビワたてぼや病に対する展着剤の加用散布による防除効果の比較

※サンマイト水和剤 3,000 倍に展着剤を加用して散布

※2010年11月17日(開花初期)散布、2011年4月27日~5月12日(収穫期)調査

※試験に用いた濃度は各展着剤の果樹における上限使用濃度(倍数)と下限使用濃度(倍数)である。

※エラーバーは標準誤差。

[その他]

研究課題名：果樹ウイルス抵抗性健全母樹の育成と特殊病害虫調査

予算区分：県単

研究期間：2011年度

研究担当者：宮崎俊英、副島康義